

荒川区区政改革懇談会

第2回福祉・健康・子育て分科会 議事要旨

【日時】

7月5日（金）10：00～12：00

【場所】

荒川区役所 3F 305 会議室

【次第】

ステップ1：・本日のプログラムの説明

ステップ3：次回の討議に向けた話し合い

ステップ2：・「幸せ」についてのフリー

ステップ4：その他

ディスカッション

ステップ1 本日のプログラムの説明

コンサルタントより本日のプログラムの説明

ステップ2 「幸せ」についてのフリーディスカッション

- ・施策の善し悪しを決める基準がはっきりしないので、その辺で意見を交換したい。福祉の観点からどんなことをしてあげることが幸せなのかを考えてみたい。
- ・福祉の中に、健康も子育ても含まれる。

《障害者（児）福祉について》

【意見交換】

- ・健常者が障害者に手を差し延べることが福祉ではない。どのような対応をすればよいのかわからない。
- ・むずかしい問題だと思う。障害者のことを理解してほしい。手助けすることだけが理解ではない。あたたかく見守るといことがうまくいかない。障害者であっても環境を整えば普通に暮らせるし、普通に地域で暮らすことが幸せだということが行政サイドはわかっていない。養護学校等への入学は、本人も家族も楽である。しかし、いずれは、普通に地域の中で生きて行かなければならない障害者が多いのだから普通学級で教育を受けるべきだと思う。アメリカなどでは、妊娠中に障害があることがわかっても、サポートする人やシステムがあって出産する人が多い。
- ・障害者をもっと町に出て、いろいろな場面に遭遇して希望が自然に出てくる社会にすべきである。道路や施設をつくる人の中に障害者がいて意見を聞けば、最初から使いやすいものとなる。
- ・健常者の視点で考えてもわからないことが多い。
- ・もっと障害者の声を聞き、まちづくり等を行うべきである。障害者と小さい時から支え合ったりして、毎日の生活の中でふれあっていれば、ほんとうの理解ができる。

- ・一緒にいることが大切である。以前は普通学校のなかに、心障学級があり、知的障害のある子どもが同じ学校にいたが、今は養護学校という別の学校にいて普段ふれあうことができない。
- ・アメリカでは障害者を従業員の何%は雇用しなければならないという決まりがあるようだが、日本にもそういうことはあるのか。
- ・一般の人たちに理解がない。知識もない。関わっている人だけが知っているのではなく、広く多くの人々が知識を持つような社会にすべきである。
- ・障害者と交流をもって、障害者を身近に感じられれば知識も増える。
- ・小さい頃から、関わりを持てるように、保育園や幼稚園の先生側に健常児と障害児を一緒に教育できる力をつけ、また、そういったシステムをつくることが大切。
- ・障害児を家族や社会が特別な施設や場所に囲って、隠してしまっている。
- ・地域に出てきて、犯罪等に巻き込まれたりするのが心配。そうになると、どこか施設にという考えにもどってしまう。
- ・いじめという問題がでてくれば、一緒と言う考えがくずれてしまう。
- ・障害児が地域にもどるといことがでていたが、荒川区に住んでいた人で普通学校に入学できなかった子どもがいたが、文京区では受け入れてくれるということで、文京区に引っ越した人がいる。
- ・区内全部の学校に心障学級があるわけではない。
- ・身体的な障害と知的障害とはちがってくる。障害の種類、程度によってちがう。
- ・幼児期から養護学校に行ってしまうと、普通の学校のことも知らないし、同年代の健常者とのふれあいもないままで高等部を卒業して突然地域に出ることになる。本人も地域の人も対応に困る。普通学校に通っていれば、高等部卒業後、社会にも自然にとけ込めると思う。
- ・子ども同士だと、大人には抵抗のある対応でも平気で流れていく。障害があってもなくても、自然にとけあえるようになるのかもしれない。
- ・障害児を健常児と完全に分けて教育するようになったのは、いつごろからなのだろう。
- ・全員就学ということで養護学校が増えたと思う。できた頃は普通学校では受け入れられない場合に養護学校へ入学したが、今はほとんどの場合、行政が養護学校への入学を誘導している。障害について専門知識を持った人が、アドバイスをすれば、障害が進んだときにも普通に生きていける方法があるかもしれない。
- ・何もかも優遇することはない。
- ・障害者だからといってアトラクションの順番待ちをしないで、先に乗せてくれることは必要ない。ただ同じところで待っていると車いすでは危ないから、別なところで待つという、そのくらいの配慮でいい。トイレも障害者専用としないで、優先とすれば一般の人も使えてそれでマナーを守ってもらえればいい。
- ・トイレも区分している。すべてに、健常者と障害者を区別している。
- ・30年代40年代は地域で守ってきた。心障学級があり、地域で一緒に育てた。
- ・障害者や障害児を囲ってしまうことはやさしいようで、やさしくない。

- ・自分ではできる限り地域で生きて行きたい。施設に入ることの方が楽だが、そうはしたくない。隣近所で助け合うという以前のような地域になることが大切。
- ・障害者ががんばって自分でやろうとしていることに、手を出してしまうのはよくない。できないことを手伝うことが大切。
- ・障害者はやらないとできなくなる。筋肉は健常者でも使わないと動かなくなる。
- ・助けることは、その人のためにならない。
- ・自分でできることは自分でしなさいということは、生活援助を減らすから自分でやれという行政の姿勢に賛同することになってしまう。
- ・本当に必要なことはなくされては困る。リハビリの期間も現状を見て本当に必要な期間は減らしてもらっては困る。
- ・障害者との関わりが大切。ふれあうことで心が育つような気がする。

《高齢者福祉について》

【意見交換】

- ・ヘルパーが来ても時間が短いと説明や話で時間がなくなってしまう。結局働いてもらわないうちに時間がすぎるといことがある。
- ・ヘルパーを頼むことも、ケアマネジャーにもほんとうに困っていることを伝えることはむずかしい。介護認定の基準にも疑問がある。結局は行政のサービスだけでは、生活が成り立たず、身内が手を出すことになる。
- ・お金があるとサービスが受けられない。元氣だとヘルパー派遣時間が短くなる。納得いかない。
- ・ヘルパーの資質である。高齢者も障害者も本当は自分でやりたいが、できないからやむなくヘルパー等をお願いしている。手伝ってあげているという立場ではうまくいかない。
- ・障害者を特別な場所に囲って、高齢者は寝たきりになったら病院に入れて目に見えないようにしている。そしてそれが幸せな国家だと思っているような気がする。その見えない部分はどうなっているのか。

《子育てについて》

【意見交換】

- ・子育て支援について、金銭的援助も大切だが、心から話し合える場や相談できる人の存在が大切。そういう部分の充実が必要である。
- ・子育て支援が充実し、子どもをよそに預けられれば自分は楽である。そんな考えで子どもを預ける人が増えると、子どもも社会もだめになる。
- ・子育てのわずらわしさを味わい、それを楽しめるようにならないといけない。楽しさを望む傾向がある。
- ・夫に育児休暇をとって子育てを手伝ってもらいたいのか。
- ・各自それぞれの考え方でいいのではないか。
- ・男性の育児休業は使えない制度で、とったら職場復帰できないのが現状。

- ・父親に望むことは、肉体的な手伝いより、話を聞いてくれることとか、精神的なサポートである。
- ・子育て経験者である高齢者から子育ての助言が聞ければいいと思う。核家族世帯が多いので料理や生活等アドバイスもしてもらいたい。
- ・昔はおんぶをして子どもを育てた。おんぶして用事をすると安心。
- ・おんぶは背中から世の中が見える。だっこは母親しか見えない。それで自己中心的な子どもが増えたのかもしれない。
- ・若い母親にアドバイスしているような高齢者はいるのか。
- ・おんぶは股関節を痛めるとか言われて、今の母親はあまりしないが、おんぶの便利さをこうして聞いていればするかしないかは自分で選択すればいい。そういう話を聞くことは大切。
- ・情報が偏るとそれに流されてしまう。

ステップ3 次回の討議に向けた話し合い

- ・こうして話しているうちに、だんだんまとまってくると思う。
- ・引きこもりにならないために、地域の取り組みについて話したい。
- ・話し合いの回数が決まっているのなら、そろそろテーマを決めてもいいのかと思う。
- ・本日は障害について話し合えたので、次回は子育て中の方のお話を聞きたい。

ステップ4 その他

次回日程について

今回は、8月に行くこととして、FAX等でそれぞれの都合を聞き、出席者の多い日に決める。
夏休み中なので、託児が必要であれば託児も可能である。

以上